

I 実践

1 研究主題

人権を尊重しようとする心情が深まる人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校は、「一人一人が輝き 夢を切り拓く 心豊かでたくましい生徒の育成」を教育目標に掲げ、「自ら学び、考え行動し、課題を解決できる生徒」「他者を理解し、思いやりのある生徒」「体を鍛え、たくましい心と体をもつ生徒」を目指す生徒像としている。その中でも、「他者を理解し、思いやりのある生徒」が人権教育と直接関わりのある目標であり、それを受けて、本校では、「思いやりの心をもって接することのできる生徒」「自己有用感をもつことができる生徒」の育成を目指した取組を『学校教育プラン』の中に位置付けている。本校は、全校生徒154名の小規模校であり、生徒同士の関わりが密であると共に、先輩・後輩の関係も穏やかな雰囲気がある。反面、不用意な発言や態度がもとで、相手が傷つき孤立しがちになるといった、人権を意識しない事例も見られる。これは、自分の気持ちを優先するあまり、相手を思いやりお互いを尊重することができずに起きてしまうことであり、人権とは何かをじっくり考える機会が少ないことにも起因している。

本校の生徒の実態からも、「支持的な風土の学校」をつくる重要性が増しているといえる。それには、共感的な理解を基盤とする生徒の育成が不可欠であり、「相手の身になって考え、相手のよさを見つける」「お互いに協力し合って自分の力を地域社会や学年・学級に役立てようとする」「学校・学年・学級が一人一人の生徒にとって存在感を実感できる」ことが大切である。そこで、本校の実態をもとに、お互いの人権を尊重し合う学校づくりを進めるために、本主題を設定した。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の教育活動全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の心情の深化を目指す。

(3) 研究内容

- ア 学校行事やボランティア活動等の体験活動を通して、人権尊重の精神を育む。
- イ 人権感覚や人権意識を育み、一人一人を大切にされた学級経営を行う。
- ウ 人権に関する実態調査を実施し、生徒への指導・援助を行う。

2 実践内容

(1) 基底的な指導における実践

- ア 生活委員会や生徒指導部を中心に、「あいさつ運動」や「さわやかなマーアップ運動」を年間を通して実施した。特定の人だけでなく、誰にでも明るく元気にあいさつできるように朝の登校時間を中心に取り組んだ。
- イ 人権尊重のポスターを掲示し、人権意識の啓発を図った。
- ウ 人権作文や人権メッセージ等に応募し、人権について考える機会とした。
- エ 友人関係の実態把握、生活アンケート調査やQ-Uテストの分析・活用を行った。

(2) 各教科における実践

ア 実践例 学び合い 1～3年

(ア) ねらい 自己肯定感を育てると共に、他者の存在を知的にも感覚的にも受容する。

(イ) 内容

学習課題に対する自分の考えや意見を伝えたり、お互いの考えや方法のよさに気付くようにする。さらに、自他の解決方法、学習の仕方やまとめ方等を振り返り、他者の成果に学ぶことができるようにする。

(ウ) 活動の様子

グループ学習では、生徒同士で学習課題についての考えを伝え合い、互いに協力し合って解決していった。協力して活動することを通して「学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気が醸成され、お互いの考えや方法のよさに気づくことができた。

(3) 道徳の授業における実践

ア 実践例 2年

(ア) 資料名 「伝言板」

(イ) ねらい 相手の立場を温かい心で理解し、共感すると共に、相手を思いやる態度を育てる。

(ウ) 内容

本資料は、入院している母親のために、花畑の花を無断で摘んでしまった女子高

校生のおわびの手紙から始まる。その高校生のお姉さんの気持ちを理解した花畑の持ち主である母と娘の行動を通して、相手の立場を温かい心で理解し、共感すると共に、相手を思いやる行動からより深い人間の生き方が得られることに気付く資料である。

(エ) 活動の様子

高校生のお姉さんの手紙を読んだ母娘の心情とその後の行動に焦点を当て、お姉さんの心に刻まれた深い感謝の気持ちとそれが他の人の心にも広がったことから、思いやりの心で、他者と共感し合って生きることのすばらしさを感じ取らせた。単なる同情や親切心にとどまらず、深い人間愛に基づくものであり、人間として共に生きる喜びにもつながるといふ自覚の深化を図った。

(4) 総合的な学習の時間における実践

本校の総合的な学習の時間のテーマは、「キャリア教育」である。「キャリア教育」の内容の中で人権教育と結びついた内容もいくつか実践している。各学年の発達段階や生徒の実態を考慮すると共に、3年間を見通した活動内容を決めている。

ア 実践例 エコサイクル（平沢中学区内の再生資源の回収活動） 1～3学年

(ア) 目的 地域での資源回収活動を通して、働くことの意義について考えさせ、奉仕の心や他の人と協力し合う態度を育てる。

(イ) 内容 グループでの回収活動、積み込み、仕分け等

(ウ) 活動の様子

エコサイクルでは、JRC委員会の計画のもと、異学年グループごとに地域を回り、再生資源の回収活動に取り組んだ。また、大量に回収した新聞紙・雑誌・ビン缶類の仕分けを生徒全員で行い、最後は仕分けで散らかった場所の清掃も丁寧に行った。この活動を通して、奉仕する心や協力し合う態度を育てることができた。

(5) ボランティア活動の実践

ア 実践例 仲町交流センターと連携した仲町学区ボランティア活動 1～3学年

(ア) 目的 福祉体験的な活動に取り組むことを通して、心豊かな生徒の育成を図る。

(イ) 内容 5月16日（土）～12月13日（日） 計14回

除草作業、通学路清掃、防災訓練、仲町学区祭り、敬老会参加など

(ウ) 活動の様子



毎回多くの生徒が、仲町交流センターと連携した仲町学区ボランティア活動に積極的に参加し、さまざまな内容のボランティア活動に取り組むことができた。このような人の役に立つ体験を通して、社会奉仕に伴う喜びを知り、社会への奉仕の意義について考えを深めた。

3 成果

- ・毎日の学校生活の中で、お互いを認め合い、高め合う機会を多くもつことができた。このことにより、自分とは違う他者を理解し、一人一人を大切にする心が育った。
- ・地域と密着した継続的な体験活動では、周囲の方々から感謝の言葉や励ましをその場で多数いただくことができる。これは、生徒一人一人が一生懸命活動した証であると同時に自己有用感につながっている。

II 今後の課題

- ・教育活動全体を通して、互いの人権を尊重し合い明るい社会を築いていこうとする生徒の育成を行う。
- ・教職員自らの人権に関する理解と認識をさらに深め、指導力の向上を図るために研修の充実を図る。
- ・家庭・地域社会に対する人権についての課題の正しい理解と啓発活動を行う。